川越城跡（川越市）

築城年代：長禄元年（1457年）、築城者：太田道灌

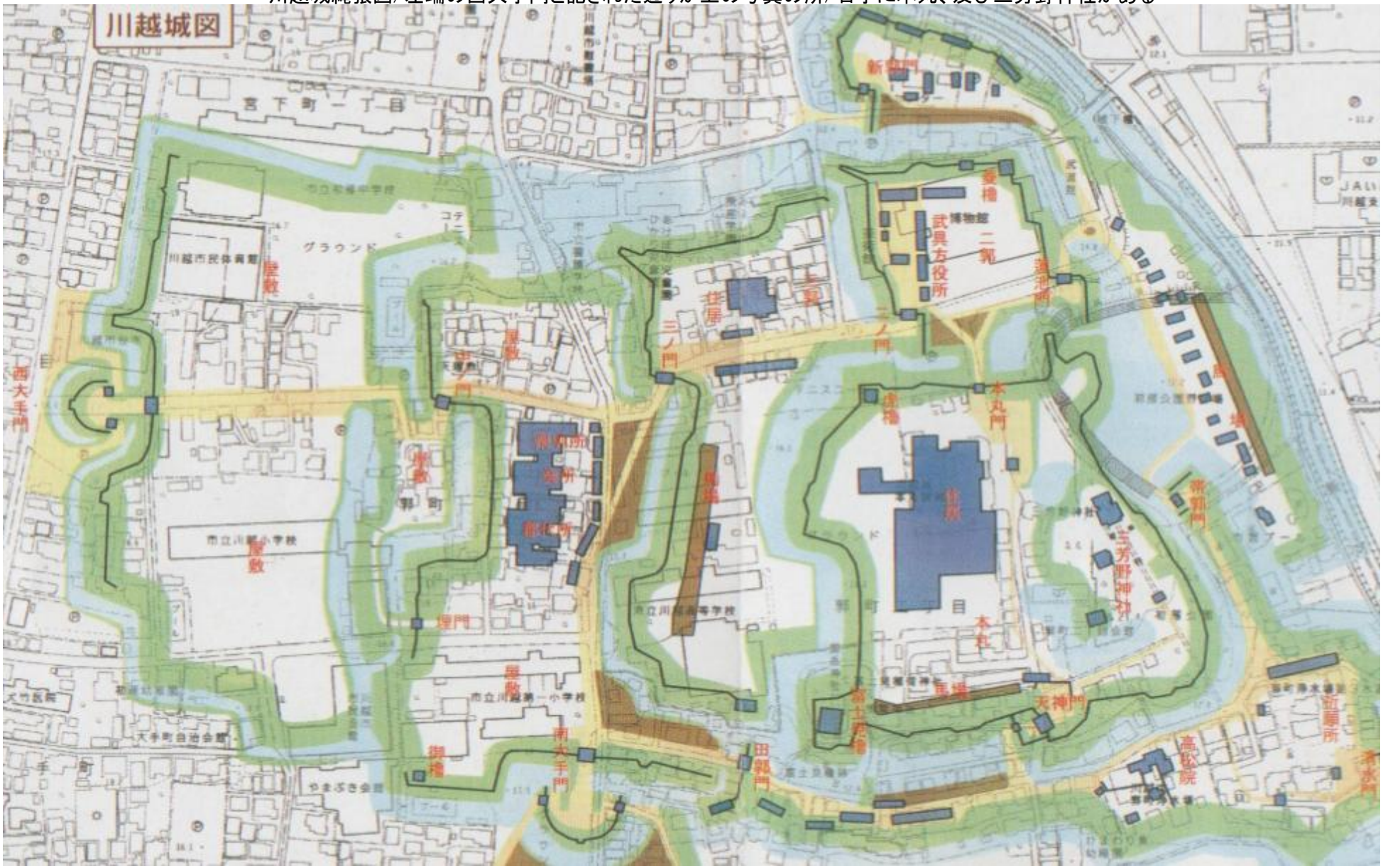
川越城大手門跡

正面は川越市役所/標柱と銅像が立っている

「川越城大手門跡」とある

これは川越城を築いた大田道灌像/1457年に扇谷上杉氏家臣の太田道真、道灌親子が築いた頃は河越城と呼ばれていた

川越城縄張図/左端の西大手門と記された辺りが上の写真の所/右手に本丸、及び三芳野神社がある



川越城のジオラマ/「丸馬出」が見て取れる

川越城本丸門跡

この辺りが本丸門があった所/前方右手が本丸御殿

標柱に「川越城本丸門跡」とある

川越城本丸御殿

これが全国で二例（もう一つは高知城本丸御殿）しか現存しないと云う本丸御殿/江戸時代（嘉永元年/1848年）建立

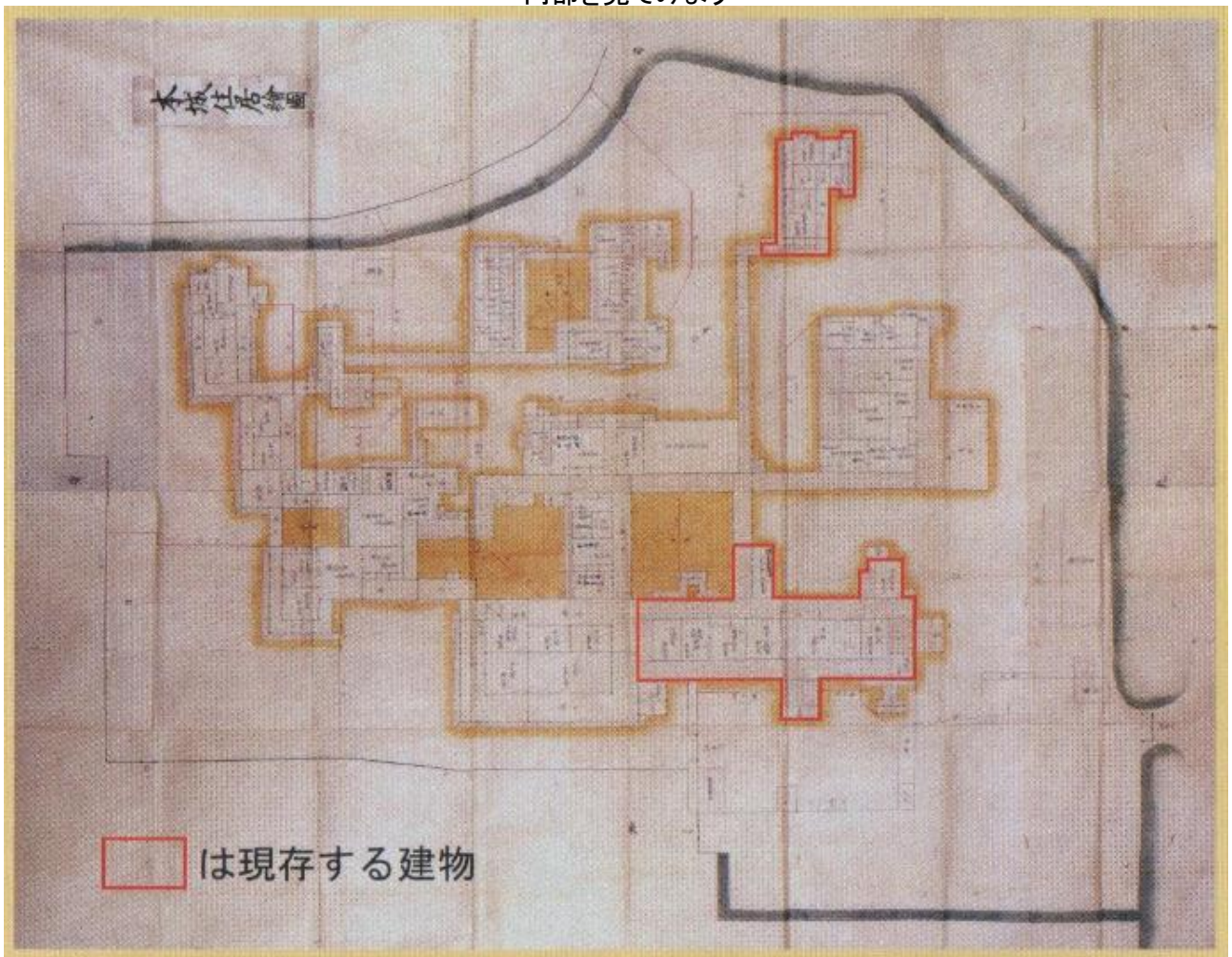
標柱が立っている

玄関

唐破風

右手に回って見たところ

内部を見てみよう



『本丸住居絵図』（光西寺蔵）

川越城本丸御殿案内図

資料の展示について
本丸御殿に関する資料は第１・第２展示室にあります。第１展示室には平成20～22年度に実施した保存修理工事に関する展示、第２展示室には本丸御殿の歴史に関する展示をおこなっています。

玄関内部

③の廊下

中庭越しに②方向を見る

中庭越しに④方向を見る

家老詰所⑦を見る

家老詰所

さて、ここには「初雁武徳殿」とあるが、この本丸御殿は昭和8年には武道場として使用されていたことを示している

天神曲輪

ここは本丸御殿隣にある当時の天神曲輪に建つ三芳野神社/埼玉県指定文化財

そこに、こんな説明坂があった

川越城の七不思議

一、霧吹の井戸

城中に苦むした大きな井戸があった。ふだんは蓋をしておくが、万一敵が攻めて来て、一大事という場合には、この蓋を取ると、中からもうもうと霧が立ち込めて、城は敵から見えなくなったという。そのため、川越城は別名霧隠城ともいわれる。

二、初雁の杉

川越城内にある三芳野神社の裏には大きな杉の老木があった。いつの頃からか毎年雁の渡りの時期になると時を違えず飛んできた雁は、杉の真上まで来ると三声鳴きながら、杉の回りを三度回って、南を指して飛び去ったということである。そのため、川越城は別名初雁城ともいわれている。

三、片葉の葦

浮島稲荷社の裏側一帯は、菅や葦が密生した湿地帯で、別名「七ツ釜」といわれていた。ここに生える葦は不思議なことに片葉であって、次のような話が伝わっている。

川越城が敵に攻められ落城寸前に、城中から姫が乳母と逃げのび、ようやくこのセツ釜のところまでやって来たが、足を踏みはずしてしまった。姫は、川辺の葦にとりすがり岸にはい上ろうとしたところ、葦の葉がちぎれてしまい、姫は葦の葉をつかんだまま水底へ沈んでしまった。この辺の葦は、この姫の恨みによってどれも片葉であるといわれている。

四、天神洗足の井水

太田道真・道灌父子が川越城を築城するに当たって、堀の水源が見つからず困っていたところ、一人の老人が井水で足を洗っているのに出会った。この老人の案内によって水源を見つけた道灌は、かねての懸案を解決し、難攻不落の川越城を完成させることができたといわれている。かの老人の気品にあふれた姿に気がついた道灌は、これぞまぎれもない三芳野天神の化身であったかと思い、以来これを天神洗足の井水と名づけて大事にし神慮にこたえたという。

五、人身御供

川越城築城の際、太田道真、道灌父子は、三方（北、西、東）の水田が泥深く、築城に必要な土塁がなかなか完成せず苦心をしていたところ、ある夜龍神が道真の夢枕にたって「明朝一番早く汝のもとに参った者を人身御供に差し出せばすみやかに成就する」と言った。道真は、龍神にそのことを約束をしたが、明朝一番早く現われたのは、最愛の娘の世襲姫であった。さすがの道真も龍神との約束を守れずにいると、姫は、ある夜、城の完成を祈りながら、七ツ釜の淵に身を投げてしまった。そののち川越城はまもなく完成したという。

六、遊女川の小石供養

むかし、川越城主にたいそう狩の好きな殿様がいて、毎日のように鷹狩りに出かけていた。ある日、供の若侍が小川のほとりを通りかかると、一人の美しい百姓の娘に出会ったので、名前をたずねるとおよねといい、やがてこの娘は縁あって若侍の嫁となったが、姑にいびられ実家に帰されてしまった。およねは自分の運命を悲しみ、夫に出会った小川のほとりで夫が通りかかるのを待っていたが、会うことができず小川の淵へ身を投げてしまった。やがてこの川を「よな川」と呼ぶようになったが、川の名は「およね」からきているとも、よなよな泣く声が聞こえるからともいわれている。

七、城中蹄の音

川越城主酒井重忠は、不思議なことに夜ごと矢叫や蹄の音に眠りをさまされていた。ある日、易者に見てもらったところ、城内のどこかにある戦争の図がわざわいしているとの卦が出たので、さっそく土蔵を調べたところ堀川夜討の戦いの場面をえがいた一双の屏風絵がでてきた。この屏風の半双を引き離して養寿院に寄進したところ、その夜から矢叫や蹄の音が聞こえなくなったという。

昭和五十七年三月

川越市

ここが三芳野神社/川越城内に守護神として取り込まれていた

三芳野神社社殿及び

平安時代のはじめ大同年間（八〇六～八一〇）の創建と伝え、三芳野
鎮守とし、江戸時代以降は徳川幕府直営の社として庇護を受けました。
寛永元年（一六二四）幕府の命をうけて川越城主酒井忠勝が奉行とな
（一六五六）川越城主松平伊豆守信綱が奉行となり、幕府棟梁木原義久
棟梁甲良若狭により瓦葺に改められ、さらに大正十一年銅板葺に改め
三芳野神社社殿は本殿、幣殿、拝殿からなる権現造で、屋根はこけ
を黒漆塗とします。

本殿は正面三間、側面二間の入母屋造で、四周に縁と高欄をまわし
内陣正面の柱間三間に板唐戸、外陣正面は中央間に板唐戸、両脇間に
極彩色をほどこした蟇股です。

幣殿は正面一間、側面二間の両下造で、背面は本殿、前面は拝殿に
内部は拭板敷に小組格天井です。

拝殿は正面三間、側面二間の入母屋造で、背面は幣殿に接続します
す。組物は出三斗で、中備は外部が蟇股、内部が間斗束です。内部は
端に獅子鼻を付け、連三斗を組んで中備に蟇股を飾ります。裏側には

三芳野神社社殿の造営経過はいささか複雑です。

寛永元年（一六二四）の造営は、慶安二年（一六四九）松平信綱が奉
造の本殿と入母屋造の拝殿のみで幣殿は存在せず、現社殿とは大きく

平成元年から平成四年にかけて実施された解体修理の報告書『三芳
幣殿・拝殿の計二十三面の蟇股はすべて同形式ですが、当初からの
あることが判明しました。また、痕跡から、拝殿には寛永元年の造
無い建築であったことも明らかになりました。現在の蟇股は、社殿
本殿と幣殿、幣殿と拝殿の取合せでおさまりが不自然な所も数カ所

以上を勘案すれば、現社殿にみる権現造は、寛永建立当初からの
本殿と、現本殿は本来別の建築と考えられます。

蛭子社・大黒社

付明暦二年の棟札（県指定・建造物）

十八郷の惣社として崇敬をあつめました。太田道灌は川越城築城にあたって当社を
り再興に着手、幕府棟梁鈴木近江守長次が造営にあたりました。その後、明暦二年
が改修を加えました。社殿の屋根はこけら葺でしたが、弘化四年（一八四八）幕府
られました。
ら葺形の銅板葺です。外部は朱漆塗を基調とし、内部は軸部を朱漆塗、建具と天井
、正面に木階をもうけ、前面は幣殿に接続します。身舎内部は内陣外陣に分割し、
部戸を装置します。組物は出組で、幣殿に面した正面だけ出三斗とします。中備は
接続します。組物は出三斗で、中備は外部が蟇股、内部が間斗束になっています。
。三方に縁高欄をまわし、背面柱筋に脇障子をたて、正面に一間の向拝をもうけま
拭板敷に小組格天井です。向拝は大面を取った角柱を陸梁形の頭貫でつないで、両
花木を篭彫した手挟を飾ります。
した「三芳野天神縁起絵巻」に詳細に記されていますが、そこに描かれた社殿は、流
、異なっています。
野神社社殿修理工事報告書』によれば、蟇股と各部取合わせを調査した結果、本殿・
ものではなく、正面より押込み、斜め釘打ちで羽目板に取り付けられた後補の蟇股で
立当初より蟇股が存在していましたが（ただし現在の蟇股とは異なる）、本殿は蟇股の
全体を同一体裁に整えるために、新たに作製し取り付けたものと考えられます。また、
指摘されています。
ものではなく、修造時に幣殿を増設して形成されたもので、さらに、寛永建立当初の

明暦二年の修造時には、江戸城二の丸東照宮が移築され、その幣殿と移され、八坂神社社殿として現存しています。確証はありませんが、現改修を受け、幣殿を増設し、本殿と拝殿を連結して現在見るような権現

蛭子社本殿と大黒社本殿は、拝殿の前方、参道に面し向かい合って第拝殿前に一対となって配置され社格を高めています。

朱塗の一間社流造、見世棚造で、屋根はこけら葺形の銅板葺としま

肘木で中備はなく、妻飾は虹梁豕扠首です。庇も柱上に舟肘木を置くだ

別当

禄十

規模

寸五分

（一七

本殿正面

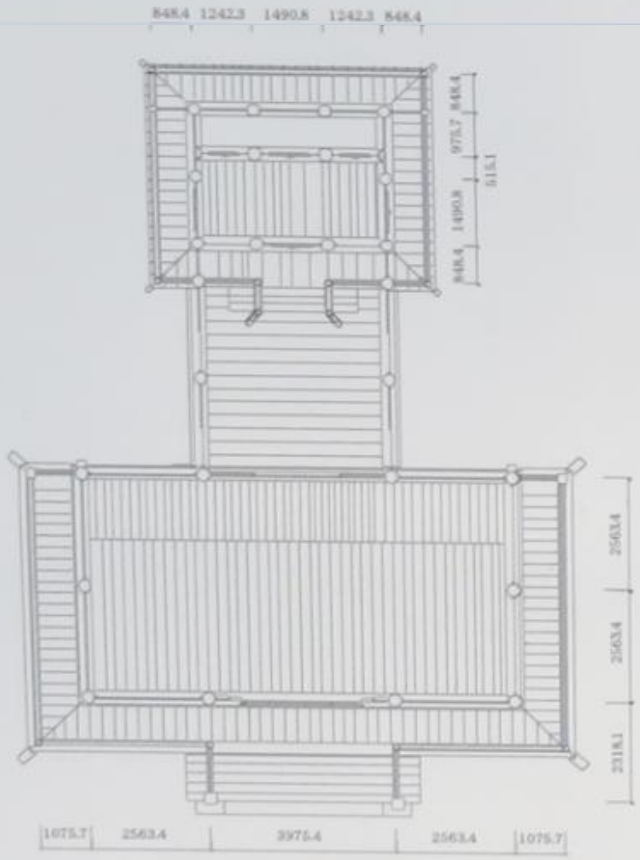
と拝殿が三芳野神社の外宮（天神外宮）となり、明治五年に氷川神社境内（宮下町）に現在の三芳野神社本殿は江戸城二の丸東照宮の本殿であり、明暦二年に移築され大現造社殿となったと推定されます。

鎮座します。拝殿から見て左が蛭子社、右が大黒社です。両社は同寸法、同形式で、

す。蛭子社本殿と大黒社本殿は、ほとんど装飾のない簡素な建築で、身舎組物は舟肘木だけで、いたって簡素なつくりになっています。明暦二年（一六五六）の「三芳野天神巣海覚書」に「末社両宇」とあるのが相当すると思われ、元禄十一年（一六九八）の「元一年川越市街屋敷社寺記」に「末社貳ヶ所共　表四尺四寸　奥七尺九寸」とあって、が記されています。しかし、現本殿は正面四尺、側面は身舎と庇をあわせて六尺四分であり、元禄の記録と一致しません。蛭子社に掲げられた額の背面に享保十九年七三四）の年紀があるので、その頃再建されたものと思われます。

昭和三十年十一月一日（平成四年三月十一日追加）指定　　川越市教育委員会

蛭子社・大黒社平面図



三芳野神社本殿・幣殿・拝殿平面図

拝殿/正面三間、側面二間の入母屋造/屋根は柿葺形の銅板葺き

左奥に幣殿、本殿と続く権現造となっている

背面で幣殿（左手）に接続する/組物は出三斗/中備は蟇股

本殿/正面三間、側面二間の入母屋造/四周に縁と高欄を廻す/組物は出組/中備は蟇股/屋根は柿葺形の銅板葺

向拝は大面を取った角柱を陸梁形の頭貫でつなぎ、両端に獅子鼻を付け、連三斗（つれみつど）を組んで中備に蟇股を飾る/三方に三方に縁高欄を廻し、背面柱筋に脇障子を立てる

向拝頭貫は獅子鼻を付け、連三斗を組んでいる/花木を篭彫した手狭みを飾る

中央が幣殿/正面一間、側面二間の両下造（りょうさげづくり）/組物は出三斗/中備は蟇股

大黒社本殿/一間社流造、見世棚造（みせだなづくり）/屋根は柿葺形銅板葺

蛭子社本殿/一間社流造、見世棚造/屋根は柿葺形銅板葺

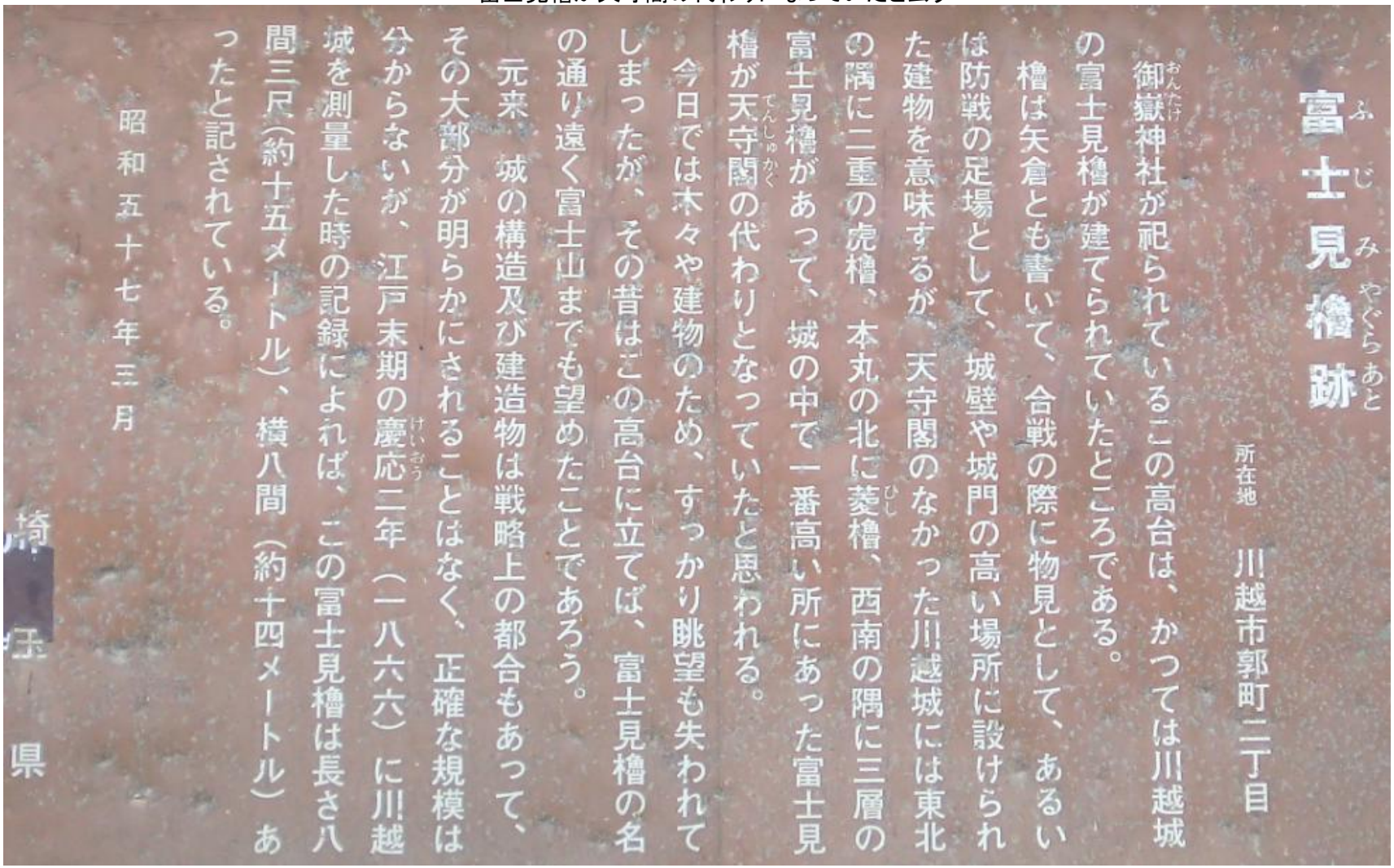
この石碑が立っているマウンドは境内に残る土塁の名残り

富士見櫓跡

さて、ここは川越城南側を守る富士見櫓跡

この頂部に櫓が建っていた/説明坂が立っている

富士見櫓が天守閣の代わりになっていたと云う



富士見櫓跡

所在地　川越市郭町二丁目

御嶽神社が祀られているこの高台は、かつては川越城の富士見櫓が建てられていたところである。

櫓は矢倉とも書いて、合戦の際に物見として、あるいは防戦の足場として、城壁や城門の高い場所に設けられた建物を意味するが、天守閣のなかった川越城には東北の隅に二重の虎櫓、本丸の北に菱櫓、西南の隅に三層の富士見櫓があって、城の中で一番高い所にあった富士見櫓が天守閣の代わりとなっていたと思われる。

今日では木々や建物のため、すっかり眺望も失われてしまったが、その昔はこの高台に立てば、富士見櫓の名の通り遠く富士山までも望めたことであろう。

元来　城の構造及び建造物は戦略上の都合もあって、その大部分が明らかにされることはなく、正確な規模は分からないが、江戸末期の慶応二年（一八六六）に川越城を測量した時の記録によれば、この富士見櫓は長さ八間三尺（約十五メートル）、横八間（約十四メートル）あったと記されている。

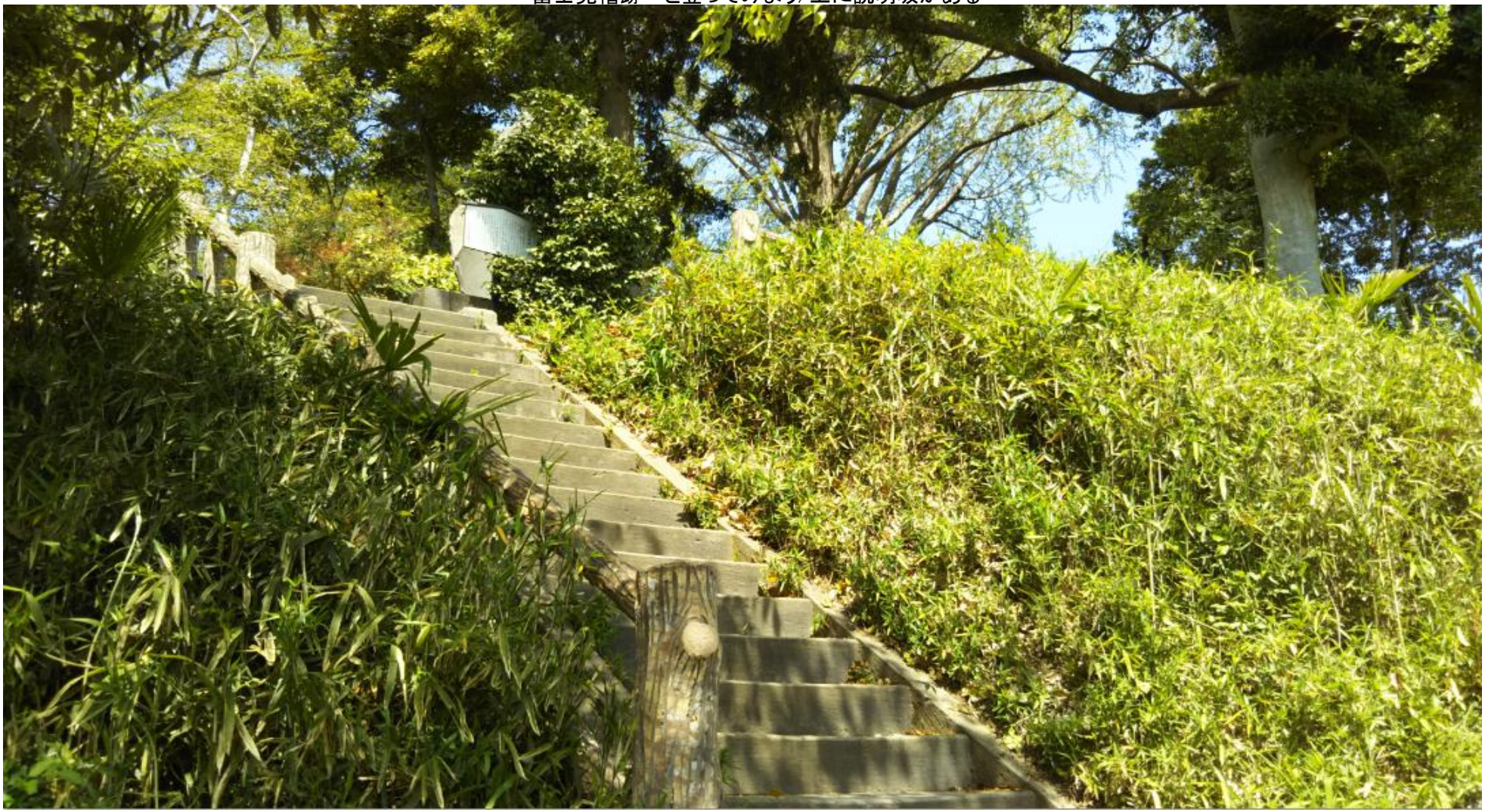
昭和五十七年三月

埼玉県

右手に回り込む

標柱があり、「川越城田曲輪門跡」とある

富士見櫓跡へと登ってみよう/上に説明坂がある



県指定・史跡

川越城跡

川越城は、長禄元年（一四五七）に太田道真、道灌父子によって築城され、上杉氏六代、北条氏四代の持城であったが、当時は後の本丸、二の丸を合わせた程度のものであった。

江戸時代になって、松平信綱が城地を拡大し、八郭・三櫓、十二門をもつ徳川家の親藩、譜代の大名の居城として有名であった。

しかし、明治維新後、堀は埋められ、土塁は壊されて、現在ではこの富士見櫓の跡と、本丸御殿の一部が残るのみとなった。

富士見櫓は築城当初に、本丸西南の隅櫓として建てられた三重の櫓で、城内第一の高所として天守閣の代わりをつとめた。

平成五年三月

川越市教育委員会

この更に上が富士見櫓跡/左手に石碑が立っている

「川越城址碑」と記された石碑

ここが頂部/背後に見えるのは御嶽神社

左手が御嶽神社、右手が浅間神社

左手の御嶽神社

これは更に奥にある冨士見稲荷

その奥はこんな塩梅

川越城南大手門跡

さて、ここは川越市立第一小学校

その中に立っている「川越城南大手門跡」と記された標柱

川越城南中ノ門堀跡

さて、本丸門跡の辺りから大手門跡方向（西方向）へ少し進むと、左手に説明坂が立っている

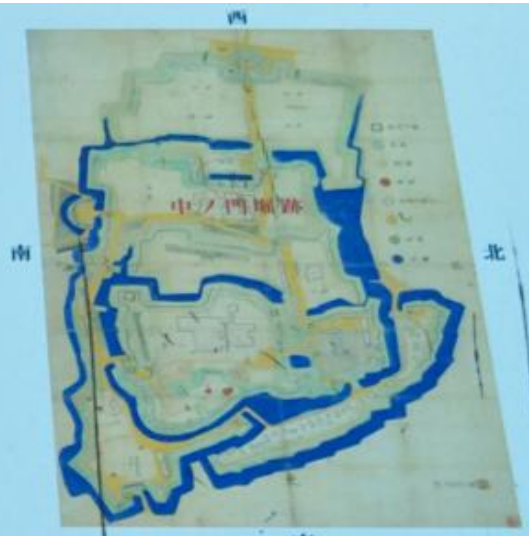
ここは中ノ門堀跡

川越城と中ノ門堀

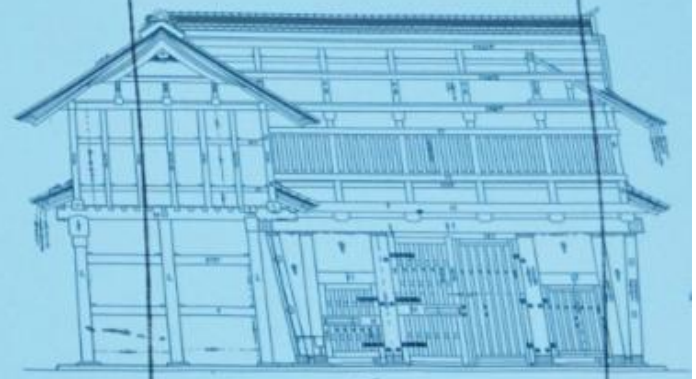
川越城は、長禄元年（1457）に扇谷上杉持朝の家臣である太田道真・道灌父子によって築城されました。当時、持朝は古河公方足利成氏と北武蔵の覇権を巡る攻防の渦中にあり、川越城の築城はこれに備えたものです。天文6年（1537）、小田原を本拠とする後北条氏は川越城を攻め落とし、同15年の河越夜戦によって北武蔵への支配を磐石なものとします。しかし、天正18年（1590）の豊臣秀吉の関東攻略に際しては前田利家に攻められて落城します。江戸時代になると、川越城は江戸の北の守りとして重視され、親藩・譜代の大名が藩主に任じられました。寛永16年（1639）に藩主となった松平信綱は城の大規模な改修を行い、川越城は近世城郭としての体裁を整えるにいたりました。中ノ門堀はこの松平信綱による城の大改修の折に造られたものと考えられます。まだ天下が治まって間もないこの時代、戦いを想定して作られたのが中ノ門堀だったのです。

現在地のあたりには、名前の由来となった中ノ門が建てられていました。多加谷家所蔵の絵図によれば、中ノ門は2階建ての櫓門で、屋根は入母屋、本瓦葺き1階部分は梁行15尺2寸（4.605m）、桁行30尺3寸1分（9.183m）ほどの規模でした。棟筋を東西方向に向け、両側に土塁が取り付き、土塁の上には狭間を備えた土塀が巡っていました。

※ 本整備工事は、国土交通省まちづくり交付金・埼玉県観光資源魅力アップ事業の補助を受けて実施しました。



川越城図（川越市立中央図書館 蔵）

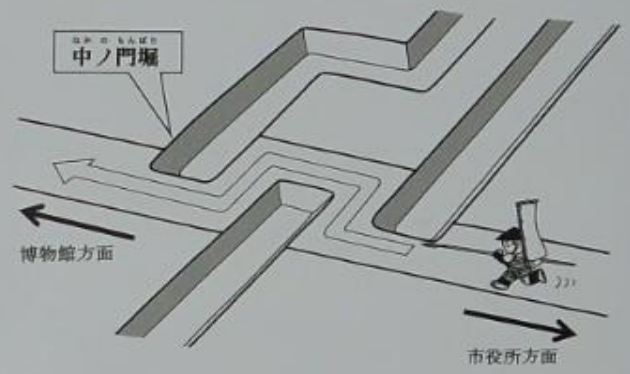


中之御門東西棟図

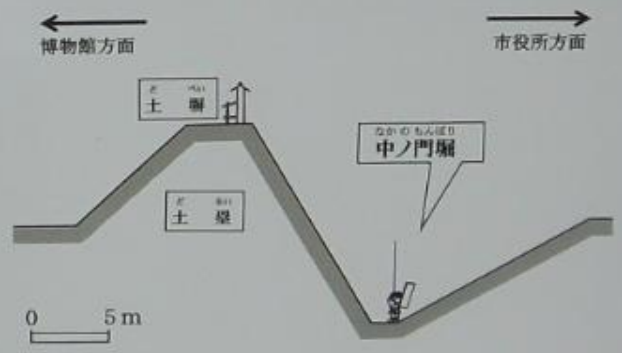
中ノ門堀のしくみ

中ノ門堀は戦いの際、敵が西大手門（市役所方面）から城内に攻め込んだ場合を想定して造られています。西大手門から本丸（博物館方面）をめざして侵入した敵は中ノ門堀を含む3本の堀に阻まれて直進できません。進撃の歩みがゆるんだところに、城兵が弓矢を射かけ鉄砲を撃ちかけるしくみでした。また、発掘調査では城の内側と外側で堀の法面勾配が異なることがわかりました。中ノ門堀の当初の規模は深さ７m、幅18m、東側の法面勾配は60°西側は30°でした。つまり、城の内側では堀が壁のように切り立って、敵の行く手を阻んでいたのです。

明治時代以降、川越城の多くの施設・建物が取り壊される中、中ノ門堀跡は旧城内に残る唯一の堀跡となりました。川越城の名残をとどめるこの堀跡を保存してゆこうという声が市民の間から起こり、川越市では平成20・21年度に整備工事を行いました。



中ノ門堀のしくみ①



中ノ門堀のしくみ②

川越城二の丸跡

二の丸跡は現在美術館・博物館が建っている/その他の遺構も市街地に埋もれてしまっているようだ

川越城蓮池門跡

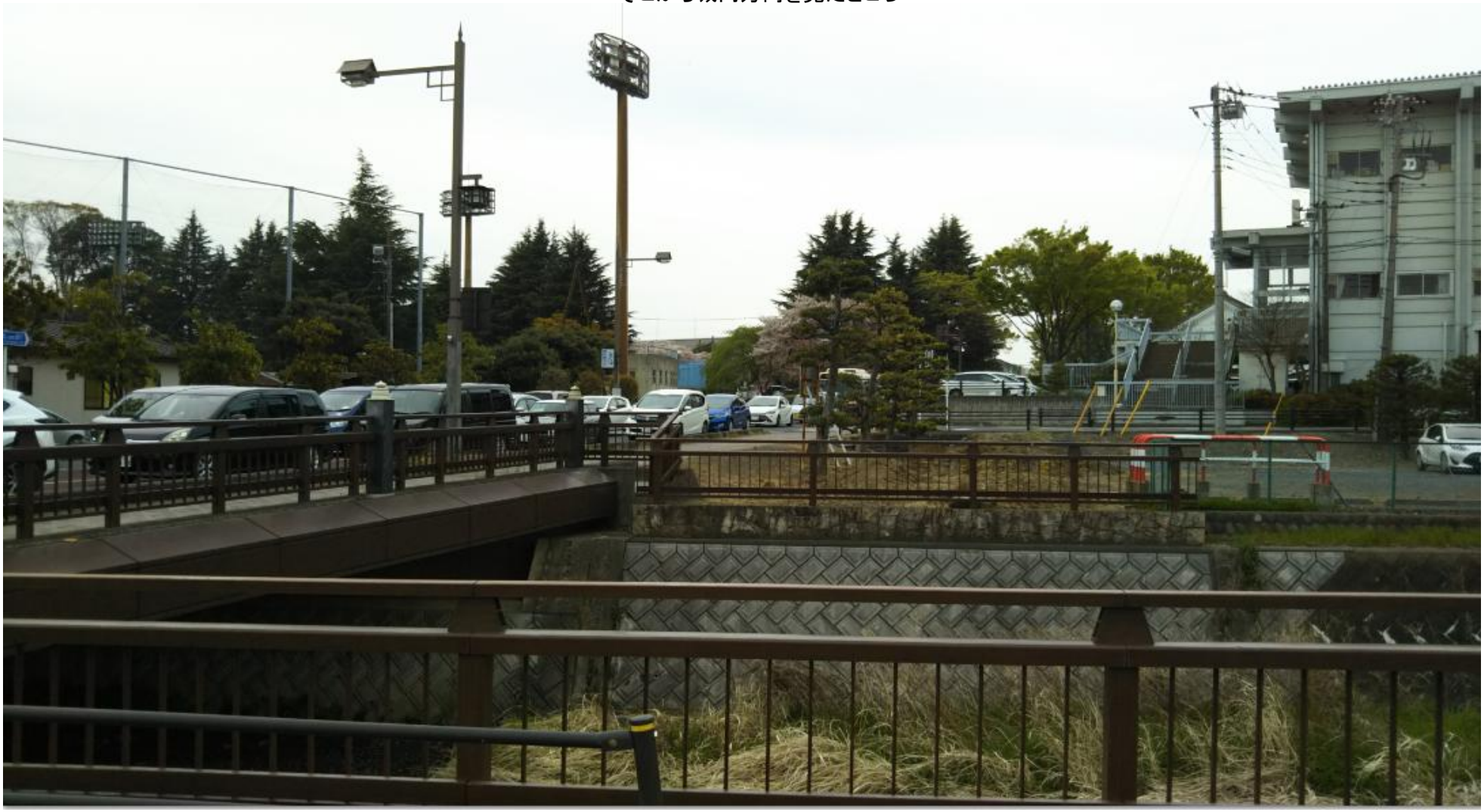
その少し東側に標柱が立っている

「川越城蓮池門跡」と記されている

その更に東側には橋が掛かっており、当時の堀跡のようだ

こんな塩梅

そこから城内方向を見たところ



参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/058kawagoe/kawagoe.html

http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/kawagoejou.htm

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Saitama/kawagoe/Kawagoe.htm

http://www.takakurashoten.sakura.ne.jp/castle/kantou/kawagoejyou.htm

https://www.kawagoe.com/exploration/exploration07.html

山田中
鯨井中
雁見橋
石原町北
上寺山
小ケ谷
星野高
西川越
今成
小室
マミーマート
生鮮市場TOP
川越市
本川越
野田町
東田町
南通町
六軒町
仲町
喜多町
神明町
宮下町
宮元町
御成町
川越市役所
城下町
氷川町
西松屋
仙波東照宮
仙波町
小仙波
小仙波南
島忠ホームズ
問屋町
寺井
川越花き市場
東明寺
埼玉医大
総合医療センター
鴨田
伊佐沼
川越
特別支援学校
八ツ島
高島
古谷上
大中居
南田島
川越
脇田新町
Japan (C)ZENRIN
(C)Yahoo Japan